令和年第2回定例
夕張市議会会議録
令和6年6月14日(金曜日)
午後6時00分開議

◎議事日程

第1 一般質問

◎出席議員(8名)

徳谷 康 憲 君
荒井 周 司 君
工藤 政 則 君
君島 孝 夫 君
櫻井 暁 君
千葉 勝 君
高間 澄 子 君
大山 修 二 君

◎欠席議員(0名)

午後6時00分 開議

●議長 大山修二君 これより、令和6年第2回定例夕張市議会第3日目の会議を開きます。

●議長 大山修二君 本日の出席議員は8名全員であります。

●議長 厚谷 司君 本日の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により

千葉議員

高間議員

を指名いたします。

●議長 大山修二君 ここで、事務局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 佐藤浩一君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員の一覧につきましては、さきに報告のとおりであります。

なお、鈴木保健福祉課長は、本日、出席できない旨の届出がなされております。

以上で、報告を終わります。

「別紙」

市長 厚谷 司 君

教育長 小林 広明 君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

副市長 吉崎 仁司 君

総務企画課長 芝木 誠二 君

地域振興課長 菊田 大介 君

財政課長 板垣 克巳 君

税務課長 秋山 俊輔 君

建設課長 押野見 正浩 君

土木課長 阿部 充雅 君

上下水道課長 小峰 健一 君

市民課長 外崎 伸一 君

保健福祉課長 鈴木 茂徳 君

生活福祉課長兼福祉事務所長

平塚 浩一 君

消防長 田島 淳 君

消防次長 松倉 暢宏 君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

教育課長 堀 靖樹 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 芝木 誠二 君

◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 山本 健彦 君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 佐藤 浩一 君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 佐藤 浩一 君

書記 山下 倫弘 君

書記 増井 菜々実 君

●議長 大山修二君 本日の日程は、お手元に配付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたします。

●議長 大山修二君 日程第1、これより、昨日に引き続き、一般質問を行います。

本日の質問者は、工藤議員、高間議員であります。

それでは、工藤議員の質問を許します。

工藤議員。

●工藤政則君（登壇） 工藤政則です。

通告に従い、2件5点の質問をさせていただきます。

マスタープランにおける居住誘導区域への施策について質問させていただきます。

市政執行方針の中で、持続可能な経済の体制づくりを謳われてはありますが、令和2年度に改定された夕張市まちづくりマスタープランや、同じく策定された夕張市立地適正化計画で、市内を3地区に区分し、安心して幸せに暮らせるコンパクトシティ夕張に取り組んでおりましたが、丸3年を経て、市内の状況も一層深刻となり、特に地域再編地区においては、高齢化の上昇、公共交通機関の再編や、さらには地域機能の象徴である飲食店の休業など、地域コミュニティを維持していくことが困難になりつつあります。拠点地区域内においても、郵便局の一時閉鎖や飲食店の閉店が相次いでおります。

市の本庁舎の移転も計画されていますが、このままでは、市内の地域経済の崩壊、もっと言えば市民の生命の安全に関わる事態になりかねないと危惧しており、居住誘導施策の見直しで持続可能な経済の体制づくりには必要であると考えます。

そこで、以下の点についてお伺いいたします。

立地適正化計画策定目的が持続的でコンパクトなまちづくりを進めていくためとされていることから、居住誘導区域にある市営住宅に地域再編地区の市営住宅や一戸建ての住民が転居できる仕組みをつくり、積極的に誘導を図っていくことがコンパクトなまちづくりを進める上では必要であるというふうに考えますが、

市長のお考えを伺いたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の積極的な移転誘導施策についてのご質問にお答えをいたします。

工藤議員ご指摘いただいておりますとおり、現在、夕張市では、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画により、拠点地区、地域再編地区、生産地区に地区分けをし、さらに各地区の中で、居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定し、コンパクトで地域の特性を生かしたまちづくりを進めているところでございます。

移転誘導につきまして、まず市営住宅については、夕張市営住宅長寿命化計画に基づきまして、各地区において、老朽化が著しい住宅であることや、入居戸数が少ない住宅であることなどを勘案しながら、居住誘導区域への移転交渉を行っているところでございます。

しかし、自己都合による市営住宅から市営住宅への移転は、こちらのほうは公営住宅法の第23条及び夕張市営住宅条例第5条によりまして、現に住宅に困窮していることが明らかかなものであることという入居の資格要件に合致しないため、法律上、移転が認められない状況でございます。

ただし、市営住宅から市営住宅への住み替えの特例といたしまして、まず、現在入居中の住宅において、浴室設置のスペースがない、あるいは浴室内に灯油がまを設置しているなど、住宅の浴室についてお困りの方。次に、世帯人数に異動があって、現状の間取りでの居住が困難となった世帯。そして、入居中の住宅の階段や段差にお困りの方。この場合は診断書が必要とはなりますけれども、こうした事例においては、住み替え相談に応じているところでございます。

また、一戸建て住宅の転居につきましては、現在、鹿の谷及び清水沢地区の分譲地にまだ余裕がございますので、この点についてはご相談をいただきたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 現在の居住誘導区域内での公営住

宅の空き住宅が、空き戸数が少ない状況になっているのかなというふうに考えております。令和6年2月現在で数字をいただきましたけれども、84戸と。しかも、そのうち清水沢地区、また紅葉山地区については非常に戸数が少ないというのが現状のかなと。希望する地域への移転もままならないような状況というふうに伺ってもおります。

居住誘導区域への誘導を行うが、受入れ可能な住戸が少なければ、移転誘導が進まないのではないかとこのように考えますが、市長の考えをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご指摘をいただきましたとおり、現在、市民の皆様から希望が多い清水沢地区、紅葉山地区での市営住宅の空き戸数が不足している状況でございます。今後の人口減少推移、それから市営住宅に居住されている方々の年齢層などを十分に考慮いたしまして、居住誘導区域内での受入れ住戸の確保、必要戸数などを検討した上で居住誘導を促進させていきたいと、このように考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
工藤議員。

●工藤政則君 今ほど、居住誘導を促進させていきたいという前向きなお言葉をいただいたかなというふうに思っておりますので、その辺、十分に考えていただきたいと思っております。

先ほど、市長答弁の中で、鹿の谷及び清水沢の分譲地に余裕があるので検討してほしいというご答弁がありましたけれども、両分譲地とも、ここ数年、売買がほとんどされていないというふうに認識をさせていただいております。

現状のまま、この分譲地を販売していても、売買が進んでいかないのではないかなというふうに考えますが、地域再編地区からの移転誘導、また市外からの移住定住、労働力確保、子育て世代の定住促進策として、

分譲地の購入に当たり、何かしらの優遇措置、インセンティブというものを検討されてはいかかかというふうに考えますが、市長のお考えを伺いたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご指摘がございましたところでございますが、財政再生団体になって以降、この分譲地の売買件数が少ない状況にありましたことから、市といたしましてはこの対策として、平成24年度、それから平成25年度に1度目、そして平成29年度に2度目の土地価格の見直しを行ったところでございます。

しかしながら、工藤議員のほうからもお話がございましたが、それ以降も分譲地の取引が芳しい状況とは言えないということでございますので、さらなる検討が必要な時期に来ているものと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
工藤議員。

●工藤政則君 今、動いていないものを動かすという中では、やはり積極的な措置というものが必要なかなというふうに考えております。

移住の促進施策を考えていく中においても、市営住宅もそうですけれども、やはり市営住宅または周辺の戸建住宅、そういったものの方の移転、移動というものも大きく進めていかないとならない課題のかなというふうに考えておりますので、その辺をしっかりと今後議論を進めていただいて、検討を進めていただきたいというふうに考えます。

次の質問に移らせていただきます。

地域再編地区の住民に対しては、その地区での生活や居住を否定するものではないというふうに市長は言われておられますが、一方で、居住誘導区域への転居を選択肢の一つということを示してあげなければ、将来的に不便な地区に置き去りになってしまうことが危惧されます。

そこで、地域再編地区住民の転居移転に関する相談、フォロー体制を全庁体制で構築し、いつでも希望する

タイミングで相談可能であれば、地区住民の安心につながるのかなというふうに思いますが、その辺の市長のお考えをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の地域再編地区住民の転居移転に関する相談、フォロー体制、これを全庁で構築ということについてのご質問にお答えをいたします。

工藤議員ご指摘のとおり、地域再編地区の在り方、地域住民のフォローにつきましては、これは必要であると認識しております。現在、市といたしましては、市営住宅に関しては建設課で、一戸建て住宅、分譲地については財政課、商業関係については地域振興課で随時ご相談に対応しております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 今、各課で、市営住宅については建設課で、一戸建て住宅分譲地については財政課、商業関係については地域振興課と、それぞれ各課で対応しているというお話でしたけれども、やはり地域、特に再編地区の中においてはコミュニティを守りたいと、このコミュニティの中で、個別にそれぞれ個人が移転するのではなくて、コミュニティみんなでそろって移転できるのであれば、そういった選択肢を考えたいという声も聞こえております。

そういった中では、ぜひともインフラコストの削減等のことも行政側として考えていただいて、そういったコミュニティごとの集団移転と、そういった選択肢等も今後検討課題に入れながら、地域の方と寄り添っていただくような、課を横断したような、全庁的な取組を進めていただくことを、お願いをさせていただきたいかなというふうに思っております。

それでは、次の質問に移らせていただきたいと思います。

居住誘導区域の民間商業施設についてであります、この民間商業施設については、誘導区域の魅力向上には欠かせないものであるかなというふうに考えており

ます。

そのためには、市が積極的に住民の誘導を図っていくことを示し、具体的な土地も示して、区域の将来性をアピールすることが民間商業施設の誘致には大変重要なことと考えますが、その辺のことを市長はどのようにお考えなのかをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の居住誘導区域の民間商業施設についてに関するご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、民間商業施設の誘致には、商業区域周辺の人口密集状況が非常に重要であると認識しておりまして、居住誘導区域への誘導施策を進めることが、民間商業施設誘致の起爆剤になる可能性があるものと考えております。

また、居住誘導区域の民間商業施設が誘導区域の魅力向上に寄与し、さらなる居住誘導を図ることができるものと認識しております。

現在、夕張市の都市計画マスタープランでは、全ての拠点区域の中に商業区域、近隣商業区域の用途地域が指定されておりまして、立地適正化計画では、商業区域を取り囲むように居住誘導区域が設定されております。そのため、居住誘導区域への移転誘導施策と併せて、民間商業施設の誘致についても適切な施策が実現できるよう、現在の夕張市の状況を踏まえた上で、地域の具体的な将来像をお示すべく、調査研究を行って参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 昨年の令和5年11月に、新夕張市庁舎の基本構想が発表されました。それにおいては令和11年度を目途に移転、運用を開始したいというふうに述べられております。

庁舎の移転に伴って、この庁舎の移転というものが、非常に新しいまちを構築する中においては、大きな起爆剤になるものかなというふうに、私も期待しているところでありましてけれども、そこに向けて、積極

的な居住誘導と商業施設誘導が必要ではないかというふうに考えますけれども、そのことについて市長はどのようにお考えなのかをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の庁舎の移転に伴う積極的な居住誘導と商業施設誘致に関する再質問にお答えをいたします。

先ほども述べさせていただきましたが、居住誘導、それから人口密集状況、こちらを視野に入れた民間商業施設の誘致、これは市としても非常に重要であると認識をしております、居住誘導区域に民間商業施設があることで、さらなる居住誘導にもつながるものと認識しております。この両施策は並行して実施していく必要があると考えております。

そのため、これらの施策を実施するに当たりましては、担当課が横断的に連携をし、全庁的な対応が必要であると認識してございまして、議員ご指摘のとおり、市庁舎移転はまちづくりの大きなタイミングであると認識しております。

市庁舎移転も見据え、地域の具体的な将来像をお示しできるように、引き続き、調査研究を行って参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 本当にこの市庁舎の移転というのは、公共施設の移転というだけではなくて、本当に新しいまちを一つつくるのだと、新しい夕張の再生の象徴なのだというふうに私は捉えております。

そういう中で、これから先の夕張市を考えていく中で、特にその拠点となる地区については、やはり人々が集まり、そしてにぎわいを持って暮らせるまちを目指すという中では、人が集まる施策、それと人が楽しく暮らせるそういった施設を誘致する施策、これが両輪で動いていかなければならないものだというふうに思っていますので、このタイミングを逃すことなく活用できるような積極的な準備を今から進めていただきたいというふうにお願いをさせていただいて、次の質

問に移らせていただきたいと思います。

第14次夕張市農業振興計画の進捗についての質問をさせていただきたいと思います。

市長は、かねてより夕張市の重要な基幹産業が農業と位置づけられ、令和5年度より第14次夕張市農業振興計画が策定されましたが、農家経済においては、令和5年度、メロンの販売実績が令和4年度に比べ5%ほど増加したとはいえ、各種生産資材の高騰や燃料光熱費の高止まりで厳しさを増しており、さらには慢性的な人手不足で、外国の人材に頼らなければならない現状であり、今後の育成就労制度への不安も非常に高まっております。

そこで、以下の点についてお伺いをしたいと思います。

令和5年度より第14次夕張市農業振興計画を策定し、1年が経過したところではありますが、令和5年第2回定例市議会において、市長は、担い手確保については農業関係団体と活発な議論を重ね、より確実性の高い施策を取り組んでいくと答弁されておられますが、その後の進捗状況と現在の受け止め、これをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の担い手確保に関するご質問にお答えいたします。

担い手確保につきましては、第14次夕張市農業振興計画におきまして、その中では農協、農業委員会、土地改良区などの農業関係機関、団体や生産者の皆様と連携しながら、多様な担い手等が定着し活躍できるよう、農業経営体の経営安定、発展とともに、新規就農をはじめとする農業経営を担う人材の確保、定着を目指すこととしてございます。

昨年度、令和5年度は、市、それから農業関係機関、生産者で構成をされます夕張市農業振興協議会の中の地域創生部会におきまして、農業委員会やメロン組合等にも意見を求めた中で、生産者が中心となり、有期雇用を含めた担い手確保についての課題や支援体制などについて、計3回の協議が行われたところでございます。その検討結果につきましては、この令和6年4

月に開催されました夕張市農業振興協議会の総会にて共有をされ、市を含む農業関係者間での課題の共通認識が図られた、そういった進捗となっております。

市といたしましては、こうした現場の意見に基づいた確実性の高い施策を実施することで、多様な担い手の確保、定着が図られるよう、引き続き夕張市農業振興協議会などにおきまして、情報交換、議論を重ねて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 市長は昨年の答弁の中でも、農業者、農業関係団体と三位一体となって、しっかりと意思疎通を図りながら進めていくというふうにお答えになられて、その中で、部会を活用しながらというお話をされておりました。その辺のところを創生部会、それを中心に活発な議論が交わされている中で、いろいろと課題も浮き彫りになってきたのかなというふうにご考えておりますので、今後に向けても、しっかりとその辺のところの情報交換、共有を密にさせていただいて、進めていただきたいなというふうにご考えております。

次の質問に移らせていただきたいと思います。

担い手対策ということを謳われておりますが、担い手対策の中で、現行の外国人技能実習制度が、今日、まさに参議院の本会議で可決、成立されましたけれども、2027年度からという新しい体制の中で、外国人の育成就労制度というものに改定をされることになりました。

その中で、長期にわたって就労ができるようになる一方、転籍の制限が緩和され、就労環境の整備がより一層求められる状況になっていることに対して、農業雇用労働力確保の観点から、就労環境整備、その辺について非常に農家は不安を抱えているところであります。その辺について市長のお考えをお伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の就労環境整備に関するご質問にお答えいたします。

就労環境整備につきましては、第14次夕張市農業振興計画、この中におきましては、他産業と遜色のない、誰にとっても働きやすい環境を整え、農業を支える多様な人材の受入れを推進することとしております。

市におきましては、これまで、農業サポーターや外国人技能実習生などの農業を支える従事者の生活拠点となる住宅を確保するため、市の職員住宅でありますとか市営住宅を活用できるよう支援をして参ったほか、備品購入費でありますとか、修繕費など住環境整備の支援も行っているところでございます。

また、令和6年度は、生産者や農協の要望を受けまして、滝ノ上地区の農業従事者における就労環境を整備するため、旧滝の上生活館を改修整備を支援することとしてございます。

市といたしましては、議員のほうからもご指摘ございました育成就労制度の創設、本日、参議院のほうで可決をされたという状況の中で、内容的にはさらなる受入れの環境整備というものが求められてくる中でございますから、市として夕張メロンの安定生産につながる雇用労働力の確保に向け、引き続き、生産者の皆様、それから農協と関係機関と連携をし、市内における住宅確保などに向けて、協力をして参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 今年度は旧滝の上生活館を改修整備するという計画ということでございますけれども、今年についてはそういうことで決定をされたということなのでしょうけれども、今後について、この就労環境整備を進めるに当たり、どのように市長はお考えなのか、お伺いしたいと思います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 工藤議員の就労環境整備に関する再質問にお答えいたします。

今後につきましても、農業サポーターや外国人技能実習生などの農業を支える従事者の就労環境の整備が図られるよう、どのような取組をしていくことで、地

域で働きやすく、受入れ環境が整備できるのか、生産者の皆様や農協など関係機関と連携して考えて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

工藤議員。

●工藤政則君 就労環境整備ということは、住環境が一番重要なところで、そのことを非常に考えていただいて、今まででもされてきているところかなというふうには押さえておりますけれども、住環境以外にもいろいろと環境を考えていくということは、多岐にわたってあるのかなと。

先ほど答弁の中にもありましたように、他産業と遜色がないという環境をつくっていくということが、やはりこれは農業だけではなくて、市内の中で働かれる方全てにおいても、もしかすると共通することなのかもしれませんけれども、その辺のことも十分に考え合わせていただいて、いろいろな角度でこの環境整備というものを今後も進めていただくようお願いを申し上げて、私の質問を終了させていただきたいと思っております。

●議長 大山修二君 以上で、工藤議員の質問を終わります。

次に、高間議員の質問を許します。

高間議員。

●高間澄子君（登壇） 高間澄子でございます。

通告に従い、地域公共交通の現状と再構築について、1件5点の一般質問を行います。

人口減少やマイカーの普及、新型コロナウイルス等の感染拡大の影響などにより、乗客の減で、鉄道やバスなど地域公共交通の経営環境が悪化して参りました。

交通事業者の大半が赤字を抱えるために、サービス水準の低下でさらに利用者が減少する負のスパイラルを避けることが困難な状況になっているのが現状であります。

住民が普段用いる交通手段としては、自家用車が占める割合がとて大きく、公共交通の利用度は決して高くはないですが、小中学校への通学や高齢者の通院など、市民生活を支える意味での存在意義は大きいと

考えます。

これからも住民の移動の足をどのように維持、確保していくのか、また課題解決のための取組をどのように進めていくのか考えをお伺いしたいと思います。

そこで1点目でありますけれども、夕張と札幌を結ぶ路線の延長についてお伺いをいたします。

昨年9月末をもって、夕鉄バスが夕張、新札幌間の路線の廃止、続いて、本年9月末に中央バスの夕張、札幌間の都市間バス廃止決定の報道がありました。これを補うため、市は市外デマンド交通で夕張、栗山、長沼経由の本格運行を開始し、3か月が経とうとしております。

この間、利用される方の声は様々聞こえて参ります。ある方は、交通があるだけでもありがたい。本当に忍耐強い方だなと、こんなふうにして聞いておりました。しかし、利用者の大半、大部分の方は新札幌までの所要時間や長沼での待ち時間が長く、多くの不評の声を聞いて参りました。

利用者が使い勝手のよいと思われる JR 北広島駅までの延長を考えるべきと思いますが、市長の考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の市外デマンド交通の JR 北広島駅までの延長に関するご質問にお答えいたします。

市外線デマンド交通の運行につきましては、これまでも様々なご意見、ご要望をいただきながら、交通事業者様と協議を重ね、随時でございますが、できる限りの改善を図って参りました。

4月からは本格運行としているところでございますが、今後もこの姿勢は変えずに、JR 北広島駅への延長も含めて、どのようにしたら可能になるのか検討を続けながら、利便性の向上に努めて参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 新夕張からデマンドバスを利用して札幌に向かうと、実に順調に走っても3時間かかりま

す。長沼から私たちも実際に利用してみましたけれども、片道3時間は体が限界を感じてしまいました。それが往復になりますから、本人にしてはかなりの負担を覚えることと思います。

それと長沼から延長ということを考えて、長沼からJR北広島駅まで、デマンドの延長時間はほぼ15分ぐらい、こういうふう聞いております。これを、例えば夕張市がお世話になっております、協力していただいています二つの交通事業者にいずれも尋ねて参りましたところ、それは可能な範囲であると、こんなふうな答えもいただいております。

北広島駅から札幌行きの列車は5分、10分間隔に札幌行きが出ていると。そういう中で、実際にあるものを利用して、少しでも利便性がよくなり改善するのであれば、当然、前向きに取り組むべきと、こんなふうには思いますけれども、市長の思いはいかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えをいたします。

再質問の内容、今後の対応ということでございますけれども、繰り返しになるところではございますが、これまでも交通費事業者さんと協議を重ねる中で、随時、これは改善に向けて、やはり市としてもしっかり対応していこうという決断に至れば、そうしたものについては、これまでも改善を行ってきております。

つきましては、本日ご質問の中でも、具体的にJR北広島駅への延長も含めてということでのご質問がございましたが、こちらについても、これまでどおりのスタンスの中で、どのようにしたら可能になるのかということ、利便性向上に向けた検討というものをさせていただき予定でございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 今までの答弁のように進めて参りたいと、こういうような答弁だったと思いますけれども、先ほども私も述べたように、利便性がよいと、交通事

業者も不可能なことではない、可能であるという、こういう中で、あとは、心配なのは財源の問題になるのかなと、私はこういうふうに勝手に思うのですね。

それで、長沼から北広島まで、この約15分のデマンドでの時間延長に要する費用の試算というものはされていらっしゃるでしょうか。

●議長 大山修二君 答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午後6時41分 休憩

午後6時41分 再開

●議長 大山修二君 休憩前に引き続き、会議を開きます。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご質問のありました、長沼から北広島までデマンドを延長した場合の所要の財源が幾ら必要かということの試算については、現段階では行っておりません。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 試算はしていないという答弁でしたけれども、まず市の財政状況を圧迫するような多額な金額にはなり得ないのではないかなと、私自身は察するわけでありまして。そういうことも、試算も含めて、ぜひとも市民のために実行していただきたいと思っておりますが、改めてまた市長の見解をお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えいたします。

繰り返しになりますけれども、先ほど答弁をいたしましたとおり、JR北広島駅への延長も含めて、検討をさせていただきということでございます。

なお、先ほど高間議員のほうから再質問がありました、事業者さんのお考え方の部分でございますけれども、この点についてちょっと答弁を付け加えさせてい

ただければ、デマンド交通運行を、昨年の9月以降のいわゆる実証実験運行を始めるに当たって、市も協議をして参りましたが、そうした状況の中では、なかなかやはり、市民の皆さんからのご要望が多い、いわゆる札幌方面、北広島も含め、そういったところまでの運行は困難という判断に立って、今日に至ってきたという経緯がございます。

それで、今後、今年の9月をもって中央バスが廃止になるということもございますので、こうしたことと併せまして、繰り返しの答弁ではございますけれども、北広島駅までの延長についても、その中で検討をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
高間議員。

●高間澄子君 今、市長の答弁にありましたように、どうか事業者さんとも、また懇談を深めながら、よりよい方向にぜひともお願いしたいと思います。

次に2点目に移りたいと思っております。

2点目に、市内唯一の JR 石勝線新夕張駅を利用して札幌までの移動をしやすいするために、鉄道やバス等の公共交通ネットワークの連携について、どのように行っているのかをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の JR 石勝線新夕張駅との連携に関するご質問にお答えいたします。

市内唯一の鉄道駅でございます JR 新夕張駅との連携につきましては、市外線デマンド交通との接続だけにとどまらず、JR 石勝線や市内路線バスのダイヤ改正時などにおいても、夕張市が間に入るなど、綿密に連携を取りながら調整を行っているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
高間議員。

●高間澄子君 はい、分かりました。

それで、私も今回この質問をするに当たりまして、自分なりに調査しました。そのところ、その結果といますか、2024年4月1日改正の夕鉄バスの時刻表、

そして2024年3月16日改正の JR 石勝線の時刻表、これを、そこそこいただいてきて、ちょっと照らし合わせてみました。すると、私が思っていたよりは意外な結果がありまして、新夕張から南千歳経由で札幌へ出るといたしましても、JR の、一応新夕張発が8時23分というのがあるのですが、それに夕鉄バスが、しっかりと8時7分に着くように連携が取れているのですね。これが16分、間はあるのですが、年配の方なり、そこそこちょうどいい時間なのかなというふうに、それが、この連携が取れる札幌行き、南千歳行きの JR が8本、夕鉄バスと連携。待ちましても15分から30分程度という、本当にこういうタイミングのいい時間表がありました。

また逆に、新夕張に着の時間帯が、例えば朝10時2分で、これに夕鉄バスが10時21分発車という本当に19分ぐらいの時間差なのですけれども、こういう15分から20分程度待つだけのこの連携も、帰りの列車と夕鉄バスの連携も5本あるのですね。だから、これを見ると、本当に双方で考えてくれているのかなというふうに取りまして、これもやはり利用していくべきかなというふうに感じたところであります。

そこで、南の玄関口としての新夕張駅から札幌まで乗り合わせ可能な時刻表、これをぜひとも、夕鉄さんが作るのか、行政として作るのか。それはこれからのことですが、こういう連携もできますよという、そういう、ちょっと年配の方でも、照らし合わせなくても一目見れば分かるようなそういう時刻表があったら、これもまた一つ解決の糸口になるのかなと、こんなふう感じた次第であります。

これ、続けていいですか、もう一つ。

それで、今に関連するのですが、私たち夕張市民は、JR から夕張市民特急券代用証というのが発行されますよね。1年ごとの更新になりますけれども、窓口で夕張市民である証明の提出で発行されて、南千歳までの特急料金が免除されるという、こういう特典もあります。なかなかこのことが分かっている市民の方、「ええ、そうなの」と驚いて喜んでいらっしゃる方もたくさんいらっしゃいますので、この点も併せて、

夕張市民にしっかりと周知していただければと思います。

市長、この点についていかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えいたします。

今は JR とそれから市内の路線バスの接続といったこと、それから南千歳までですけれども、JR の特急に乗車ができる、代用証の関係のご質問がございました。

それで、市政懇談会の中でも説明をさせていただいているところでございますが、まず1問目にもご質問いただきました市外線のデマンド交通の関係で、なかなか利用方法が分からないというご意見もあったところでございますので、こうしたものも踏まえまして、市として今後の対応について、ちょっとしっかり検討させていただきたいと、そのように考えております。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 よろしく願いをいたします。

次に、3点目に移ります。

市内バス路線は早朝1便と夜間1便を廃止して、昼間2便増として運転手の拘束時間を短縮いたしました。バス事業者は大型バスを使い、運転手は大型二種免許の資格を必要といたします。

一般市民の1日乗車平均は115人、バス1本に対し5人から6人の利用にとどまっております。運転手の確保のしやすさからも、ぜひ車両の小型化について検討すべきと思いますが、市長の考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の車両の小型化による運転手の確保に関するご質問にお答えいたします。

市内路線バスは、運行事業者であります夕鉄バスが運転手、それから車両など、現状の交通資源を有効に活用しながら運行しているところでございます。

議員ご指摘のとおり、利用者が数人の便もあることは承知してございますが、一方で、児童生徒の通学の足としても路線バスは利用されておりまして、特に朝

の通学時間帯などにおきましては、大型バスでも乗り切れないため、別の交通事業者の協力を仰ぎながら、スクールバスを運行するなど対応しているところでございます。

このようなことから、現時点で全ての車両を小型化することは、市内路線バスの円滑な運行上、直ちに実行するのは難しいものと考えますが、運転手確保の面のみならず、新たな車両購入や維持管理上の経費面、それから運行計画上の車両配置面、こうしたものを考えながら、持続可能な公共交通体制の維持に向けて何が有効なのか、今後も交通事業者などと情報交換をして参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 再質問でございますけれども、大型バスの最も必要な時間帯というのは、朝の子どもたちの登校時と、こんなふうに考えます。これからの児童、そして生徒の減少も考えますと、市内路線10往復全ての路線で大型バスを運行することで、赤字の補填をしなければならないと思うのですが、この赤字の補填につながって参るわけでありまして、大型バスを10往復走らせているということは、

この点についても、いろいろな問題は抱えていると思いますけれども、この大型でなくて小型にしていくことで、市が補填しなければならない赤字、これが減っていく、こういう計算になるのですけれども、この点については、市長はどんなふうにお考えでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えをいたします。

市内10往復の路線バスを確保するという段でも、バスの規格については、運転士さんの免許ということはずまず除いた上で、利用人員に応じて大型バスであったり、あるいは小型のほうがよいのではないかということ、内部で検討した経緯がございます。

その中においては、経費としてはバス大型でも若干小ぶりなものでも変わらないという判断がそのときの

市の判断でございましたので、今後、例えば、車両の性能だとかも年々向上しておるものというふう存じておりますから、そうした中で、経費の削減が図られ、また事業者さんとしても、いわゆる1便1便を見るだけでなく、全体を回していく上で、そういった車両の導入が有効であるということがあるかどうかということも含めて、しっかりと交通事業者と協議をさせていただきたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
高間議員。

●高間澄子君 よろしくお願ひしたいと思います。
次、4点目に移りたいと思います。

4点目の質問は、児童生徒、子どもたちが登校時における輸送人数、また車両等の配置計画の現状をお伺ひいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の児童生徒登校時における輸送人数、または車両等の配置計画の現状についてのご質問にお答えいたします。

まず、議員におかれましてはご承知をいただいていることと存じますが、児童生徒の通学につきましては、一般の乗客が利用する路線バス、それからスクールバス、こうした車両を最大限活用して、市内5路線において、通学の足の確保に努めているところでございます。

児童生徒のバスを利用しての通学者数でございますけれども、小学生が78名、中学生が53名となっております、バス通学の割合はそれぞれ約6割となっております。

次に、車両等の配置計画につきましては、各路線の人数に合わせて、これまでどおり、通学に支障がないよう努める所存でございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
高間議員。

●高間澄子君 教育委員会、これは担当者が作成する、複雑にならざるを得ない進行表ですね。この作成に大変なご苦勞のほどを感じるところでございます。

私も資料をもらいましたけれども、これをどう見て、どう判断すればいいのかなど何度も繰り返し目を通したところでございます。

今後、児童生徒の減少などを考えますと、路線バスに影響されない登下校の在り方の検討が必要ではないかと、こんなふうに思います。この点についての市長の考えをお聞かせください。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の再質問にお答えいたします。

今回いただいている質問の中で、特に児童生徒の登校時における車両の配置計画というところと関連してくるというふうに思いますが、毎年、車両の運行については、その年度年度で所属する児童生徒の皆さん、そしてそうした方々が、いわゆる通学のためにどこからバスに乗られるかということ把握した上で、その時点時点で適切な形で運行計画というものを策定しているところでございます。

つきましては、今後、児童生徒が減少などをした場合におきましても、そうしたことと照らして、交通事業者さんと最適な運行となるように議論をして参りたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。
高間議員。

●高間議員 はい。よろしくお願ひをいたします。

次の5点目、最後になりますけれども、5点目の質問させていただきます。

平成31年4月から、JR石勝線夕張支線の廃止に伴いまして、夕張市石勝線代替輸送確保基金を創設しているわけでございます。その額といたしまして7億5,000万円の基金の、この運用計画はどのように考えているのか、またどのように行っているのか、この点をお伺ひいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 高間議員の夕張市石勝線代替輸送確保基金の運用計画に関するご質問にお答えいたします。

夕張市石勝線代替輸送確保基金につきましては、石

勝線の夕張支線の廃線に伴いまして、代替輸送事業の財政需要に充てるため、北海道旅客鉄道株式会社による拠出金、金額にして7億5,000万円でございますけれども、これを基に平成30年に条例により設置されたものでございます。

平成30年度からおおむね20年間にわたり、条例の趣旨に則り、代替交通運行に必要な車両の確保、南北線運行補助、バス運賃差額激変緩和措置などに充てることとしておりまして、これまで事業の実施に応じて取崩しを行って参りました。

令和5年度末の残高につきましては、5億8,000万円程度となっております。

今後におきましても、条例に基づき、計画的かつ効果的な運用に努めて参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 はい。ありがとうございます。

法令に則って、条例に則って、計画的に効果的な運用に努めていらっしゃるということなので、今後もまた我々も安心してお任せしていきたいと思えます。

続きまして、再質問いたします。

市内の路線バス運営に際しては、石勝線代替輸送確保基金以外にも、国や市からも多額の助成金が交付されておりますけれども、これは需要に見合った交通体系の構築と、また持続する運行体系の維持を図っていただきたいと考えますが、市長の考えをお伺いいたします。市長、分かりましたか。ちょっと分からないので。

●議長 大山修二君 答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午後7時03分 休憩

午後7時03分 再開

●議長 大山修二君 会議を再開いたします。

高間議員に申し上げます。ただいまの質問と通告した質問要旨との関係を明確にして、質問をし直してく

ださい。

高間議員。

●高間議員 失礼いたしました。

市内の路線バス運営に際しまして、先ほど市長が答えていただきました石勝線代替輸送確保基金、これがありますけれども、これ以外にも、国やまた市からも多額の助成金を交付されていると思えます。

それで、需要に見合った、バスがどういうふうに必要なをされているのか、その交付金または補填に見合った交通体系の構築と持続可能な運行体系の維持を図っていただきたいと、私はこんなふうを考えます。

市や国が、基金からも、これからの支出と、またそういう事業者さんが、やはり夕張に対して、夕張市民に対して、それに見合った交通体系の運行、そういう体系をぜひともやっていただきたいと、こんなふうを考えますけれども、市長、いかがでしょうか。

●議長 大山修二君 答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午後7時05分 休憩

午後7時05分 再開

●議長 大山修二君 休憩前に続き、会議を再開いたします。

厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 お時間をいただきまして、失礼いたしました。

高間議員の再質問にお答えいたします。

夕張市石勝線代替輸送確保基金に関連しまして、これからの地域公共交通の維持に向けた市の財政的な対応、それもなるべく節約できるものはしてということであるというふうに受け止めておりますが、今までこの現状といたしましては、石勝線が廃止後、これはJR北海道さんとの約束でも、南北10往復の確保ということがまず大前提にございました。それで、市としては交通事業者さんとも協議をする中で、まずその体制を維持しているというところ、これがまず一つでございます。

そして、その上で、特に交通事業者に対する補助の関係、考え方でございますが、これは先ほど高間議員からも触れられておりました、そのバスを運行するに当たってのいわゆる経常費用、経費ですね。幾らかかるのかということに対して、経常的な収益、いわゆる料金収入ですね。これが幾らかかるのかということを出した後、費用を賄うのに収入が足りないといった場合において、それぞれ条件はございますが、先ほど高間議員からもお話がありましたように、国、それと市のほうで折半をしながら補助しているという状況でございます。

いわゆるこの形が崩れてしまうということになるということは、やはりなかなか地域の交通事業者さんの運行そのものも厳しくなるということだというふうに思いますので、市といたしましても、毎年、交通協議会の開催など、それから日常的な事業者さんとの意見聴取、意見交換も行っておりますので、今後も、議員のほうからご指摘ありましたようなことに留意をしながら、協議を続けさせていただきたいと考えております。

●議長 大山修二君 再質問、ありませんか。

高間議員。

●高間澄子君 いろいろ様々な答弁いただきましたけれども、少しでも前向きに、一歩でも前進するような地域交通の構築をお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

●議長 大山修二君 以上で、高間議員の質問を終わります。

以上で、通告されました質問は全部終了いたしましたので、日程第1、一般質問はこれをもって終結いたします。

●議長 大山修二君 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午前 7時09分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 大山 修 二

夕張市議会 議員 千葉 勝

夕張市議会 議員 高間 澄 子